

8-4-5 公益活動WG

1. 設置目的と組織

(1) 公益活動 WG の設置目的

本 WG は、建設コンサルタント会員全般の技術力向上と公益活動を目的として、以下の方策に取り組んでいる。

- ① 本省・国総研・土研と建コン協との技術的連携・協議事項に関する窓口機能
- ② コンサルタント相互の技術支援制度の創設
- ③ 発注者からの技術相談窓口の設置
- ④ 国総研・土研との分野別実務者レベルの意見交換会の開催
- ⑤ 本部・支部活動成果（技術資料）の共有ならびに発注者への配布
- ⑥ その他 会員相互および公益に関する活動

(2) 組織

令和元年5月組織改編に伴い、統括技術委員会副委員長代表4名から構成される組織となった。活動が道路および道路構造に関する技術的事項に限定されているため、現時点では組織を縮小し、課題に関係する委員のみで構成されている。

2. 活動記録

本 WG は、本省国道・技術課、技術調査課、国総研・土研の道路・橋梁担当者及び研究者と建コン協との窓口としての活動が主である。委員自ら実施することの他に、改定道路橋示方書連絡 WG、道路橋技術相談窓口対応 WG、道路構造物専門委員会と連携して活動している。

3. 活動実績報告

(1) 共同研究の実施

a) 既設道路橋群の維持管理計画の継続的改善に関する共同研究(以下 維持管理計画)

本研究体制は研究責任者の下、道路性能評価手法、将来推計手法の統一、法定点検の解釈基準の統一の3つのWGから成り立っており、それぞれ各WG長を中心に研究活動を行っている。なお、本研究は、国総研の他、京都大学、大阪大学、京都府、茨城県との共同の下で実施されている。

本研究は継続実施が合意され、新たに「既設道路構造物群の維持管理計画の策定・更新手法に関する共同研究」の協定が結ばれ、令和5年度より

開始される。本研究は、研究成果を実務設計に取り入れるためのマニュアル化を目的の一つとしている。

b) 道路橋の性能評価技術に関する共同研究（以下性能評価）

本研究は、性能評価手法に関する研究であり、国総研、日本橋梁建設協会、プレストレスト・コンクリート建設業協会、日本建設業連合会との共同研究である。本研究は、令和4年度も継続となり令和5年3月終了予定である。

(2) 橋梁計画便覧作成

道路協会橋梁委員会からの依頼による「橋梁計画便覧」を継続執筆中。今年度の国総研との打合せは以下のとおり。WGは打合せに先立ち実施。

4月27日、7月27日、10月3日、12月26日、3月16日

(3) 道路橋疑義事項収集・回答整理

・技術相談窓口回答委員の協力の下で実務上の課題・疑義について整理

・2月末試行版「H29 道路橋示方書適用に関する疑義と参考意見集」として作成関係者に配布

(4) 道路協会講演「橋梁計画」資料確認

道路協会からの講習依頼に対して、道路構造物専門委員会が作成・講習する資料に対して、公益活動WGが進めている橋梁計画便覧記載内容と齟齬が無いよう確認を行った。講習は、1月18日（道路構造物専門委員会により実施）

(5) 意見照会対応

・国土交通省本省・道路協会からの意見照会対応

・鋼道路橋数量集計マニュアル改定

・道路橋床版防水便覧意見照会

(6) 道路協会委員選出依頼対応

道路協会橋梁委員会傘下の小委員会WG構成が改編される。これに伴い、建コン選出委員の再確認と道路協会からの委員追加に対応した。

4. 次年度の活動について

令和4年度と同様に国総研・国交省との窓口機能を果たすとともに、令和4年度活動を継続する。

(公益活動WG WG長 鈴木 泰之)